

2024年3月期 決算説明会



関東電化工業株式会社

(東証プライム市場 4047)

2024年5月23日

目次

- I | 2024年3月期 決算の概要
- II | 業績見通し・今後の動向
- III | 中期経営計画の進捗
- IV | 補足資料

I | 2024年3月期 決算の概要

決算のポイント

□ 2024年3月期

- ✓ 売上高、利益ともに大幅に減少
- ✓ 特殊ガス、電池材料ともに、市場環境が大幅に悪化
- ✓ 主に電池材料で棚卸資産評価損 35億円を計上
- ✓ 電池材料で減損の兆候が認められ、減損損失 42億円を特別損失に計上

□ 2025年3月期（予想）

- ✓ 売上高、利益ともに大幅に改善
- ✓ 特殊ガスは半導体メーカーの稼働率上昇により1 QよりYoY、QoQともに回復、3 Qより完全回復を想定
- ✓ 電池材料は2 Qより米国IRA法に係る引合の寄与を想定
- ✓ 棚卸資産評価損は 3億円で縮小（上期 ▲10億円、下期+7億円）

損益計算書

(単位：億円)

	2023/3	2024/3	増減	増減率(%)
売上高	786	647	△ 139	△ 17.7
営業利益	129	△ 19	△ 149	—
経常利益	136	△ 13	△ 149	—
税金等調整前当期純利益	134	△ 53	△ 187	—
親会社株主に帰属する当期純利益	93	△ 46	△ 139	—
1株当たり当期純利益 (円)	163.32	△ 80.25	△ 243.57	

貸借対照表

(単位：億円)

	2023/3	2024/3	増減	増減率(%)
資産	1,307	1,253	△ 54	△ 4.2
現金及び預金	223	254	30	13.7
営業債権	216	161	△ 55	△ 25.6
棚卸資産	239	174	△ 64	△ 27.2
固定資産 (有形+無形)	480	497	17	3.6
負債	619	597	△ 22	△ 3.7
有利子負債	377	416	38	10.3
営業債務	106	83	△ 23	△ 21.9
未払法人税等	27	2	△ 24	△ 89.9
純資産	687	655	△ 31	△ 4.6
自己資本比率(%)	51.6	51.1	△0.5	

□ ポイント

✓ 現金及び預金の水準

主に設備投資の支払いに充当
現預金水準は妥当と判断している

✓ 営業債権の減少

精密化学品の売上高減少による
売掛金の減少等

✓ 棚卸資産の減少

主に電池材料の数量減に加え、棚卸
資産評価損35億円による減少等

✓ 有利子負債の増加

借入金の増加等

✓ 営業債務の減少

原材料購入の減少による買掛金の
減少等

✓ 純資産の減少

当期純損失の計上による減少等

基礎化学品事業部門

(単位：億円)

	2023/3	2024/3	増減
売上高	94	88	△5
営業利益	3	△1	△4

【売上高】

- ・か性ソーダ・・・販売数量は減少したが、価格修正効果により増収
- ・塩酸・・・販売数量は減少したが、価格修正効果により増収
- ・トリクロールエチレン・・・販売数量の減少により減収
- ・パークロールエチレン・・・販売数量の減少と販売価格の低下により減収

【営業利益】

- ・売上高の減少に加え、固定費の増加等により減益

精密化学品事業部門

(単位：億円)

	2023/3	2024/3	増減
売上高	639	512	△126
営業利益	114	△28	△142

【売上高】

- ・三フッ化窒素・・・販売数量の減少により減収
- ・六フッ化タングステン・・・販売数量の減少により減収
- ・ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン・・・販売数量の減少により減収
- ・六フッ化リン酸リチウム・・・販売数量の減少と販売価格の低下により減収
- ・技術支援料・・・ライセンス契約による対価の一部を売上高に計上

【営業利益】

- ・売上高の減少に加え、売上原価の高止まりや棚卸資産評価損を計上したことにより減益

鉄系・商事・設備事業部門 (連結調整を含む)

(単位：億円)

	2023/3	2024/3	増減
売上高	53	46	△6
営業利益	11	9	△1

【鉄系事業】

キャリアの販売数量減少により減収減益

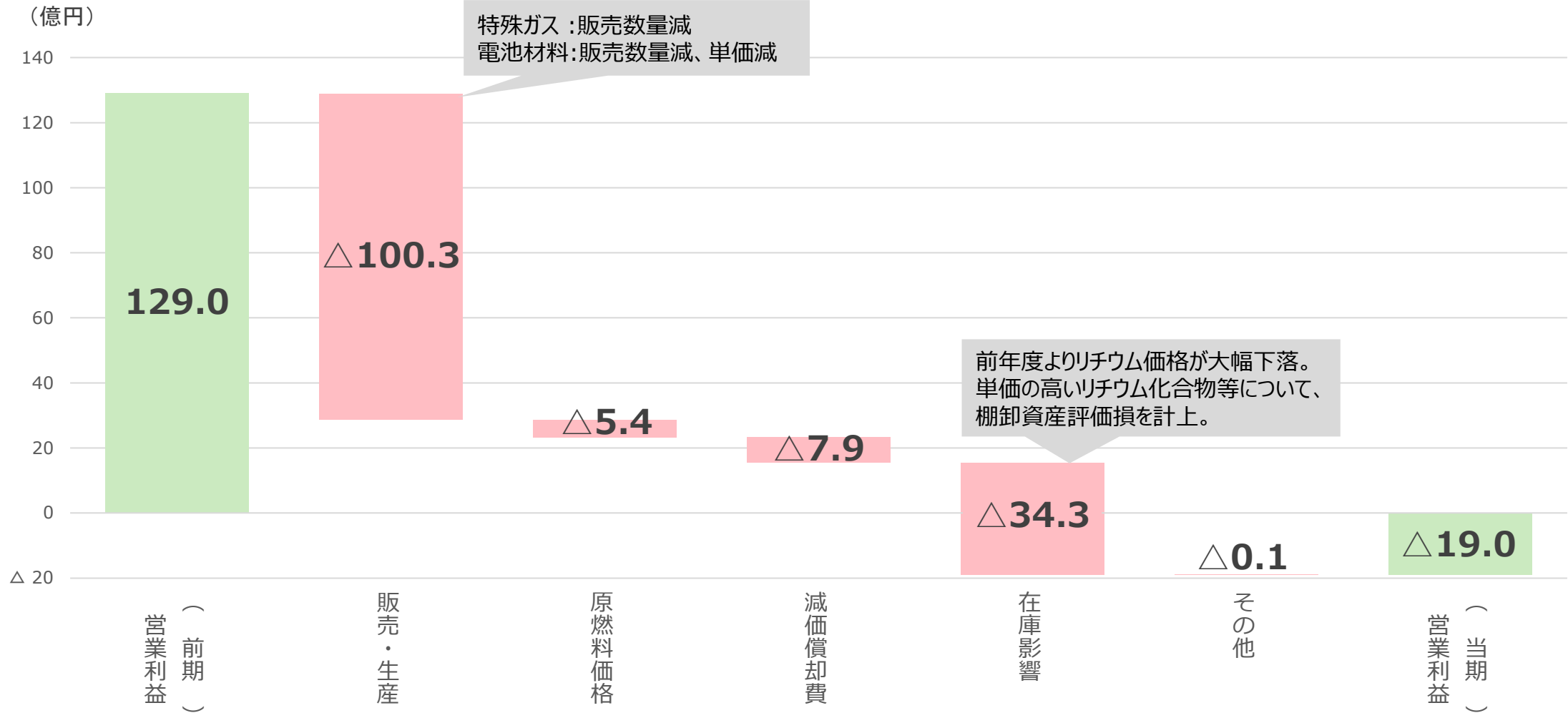
【商事事業】

前年同期並み

【設備事業】

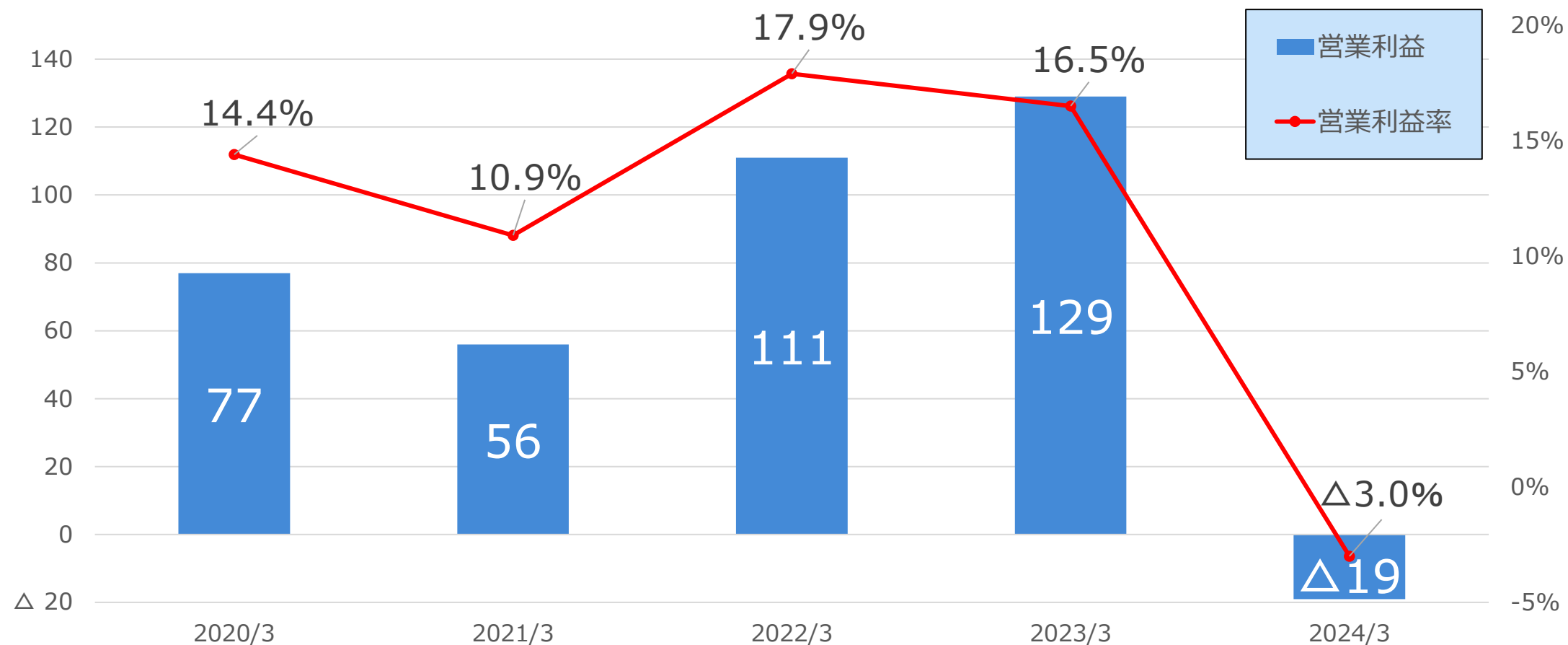
請負工事の増加により増収増益

連結営業利益差異分析 (2023/3 対 2024/3)



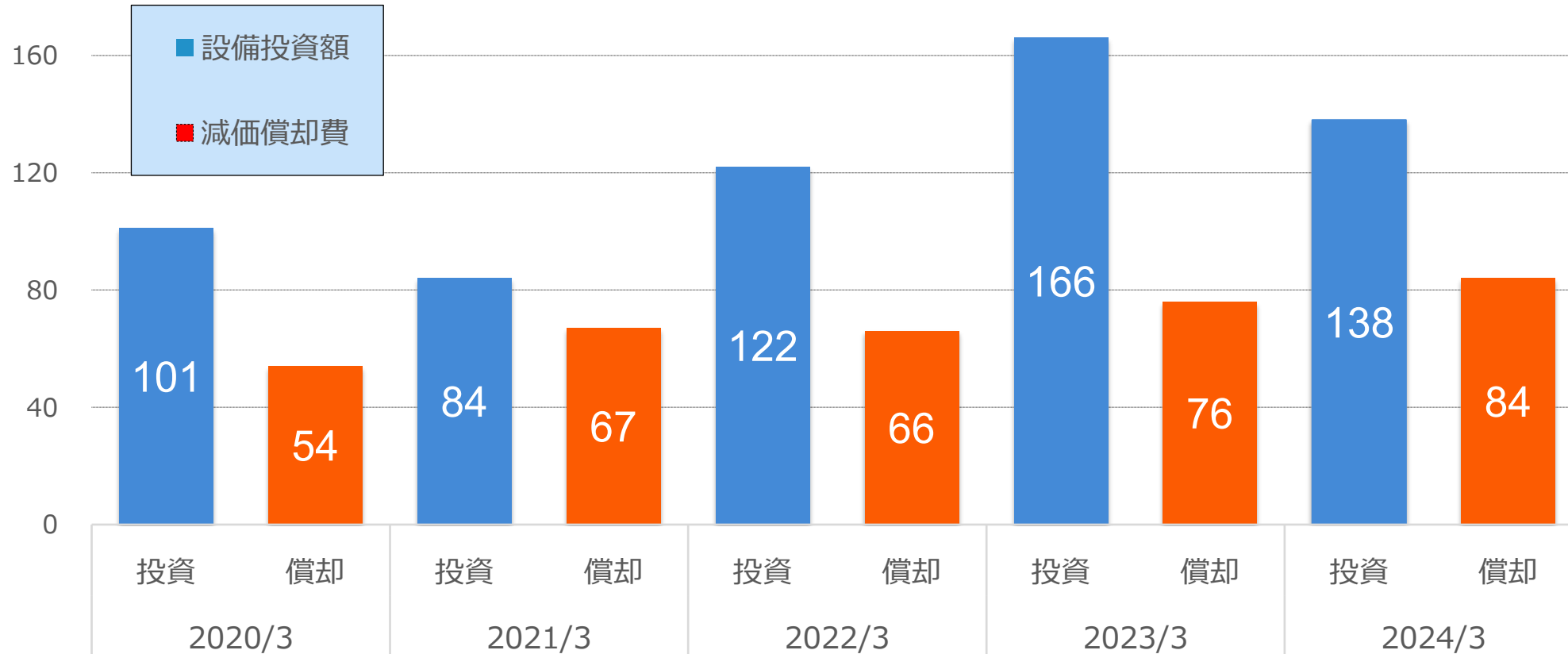
営業利益と営業利益率の推移（連結）

(億円)



設備投資・減価償却費の推移（連結）

（億円）



関東電化グループ（連結子会社）

	資本金	出資 比率(%)	2024/3 売上高(億円)	対前期比 (億円)	主要な事業内容
関電興産(株)	10百万円	100.0	83	△29	化学工業薬品の販売および容器整備、 保険代理店
(株)上備製作所	120百万円	49.4	59	0	化学工業用設備の製作・加工・修理
(株)関東電化ファインテック	27百万円	100.0	6	△0	鉄酸化物の製造販売
関東電化KOREA	3億ウオン	100.0	146	△2	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份有限公司	7百万NTドル	100.0	63	△6	フッ素系製品の販売
関東電化ファインテック韓国	420億ウオン	100.0	30	△1	フッ素系製品の製造・販売
宣城科地克科技有限公司	50百万ドル	98.3	0	0	フッ素系製品の製造・販売
		合計	390	△40	

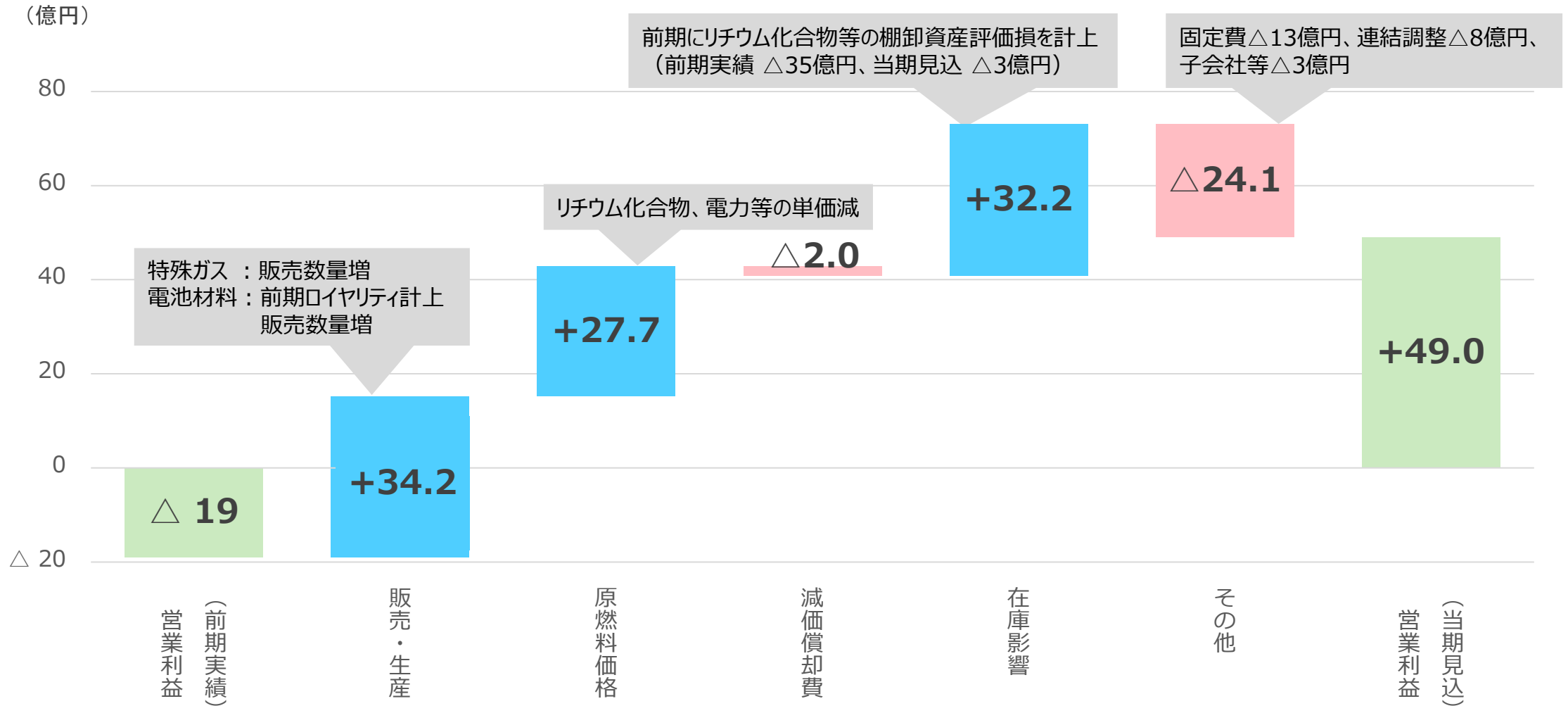
Ⅱ | 業績見通し・今後の動向

セグメント別業績予想（連結）

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	2024/3	2025/3	増減	2024/3	2025/3	増減
基礎	88	85	△3	△1	0	1
精密	512	560	47	△28	45	73
その他※1	46	45	△1	9	4	△5
合計	647	690	42	△19	49	68
(参考)単体特殊ガス	333	407	74	13	30	17
設備投資費	138	155	17	【業績予想前提】 為替レート：145円/\$ ※1 その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。 ※2 2024年3月期に計上した減損損失により、2025年3月期の償却費は約7億円減少しております。		
減価償却費※2	84	87	2			
研究開発費	13	19	6			

連結営業利益差異分析 (2024/3 対 2025/3)



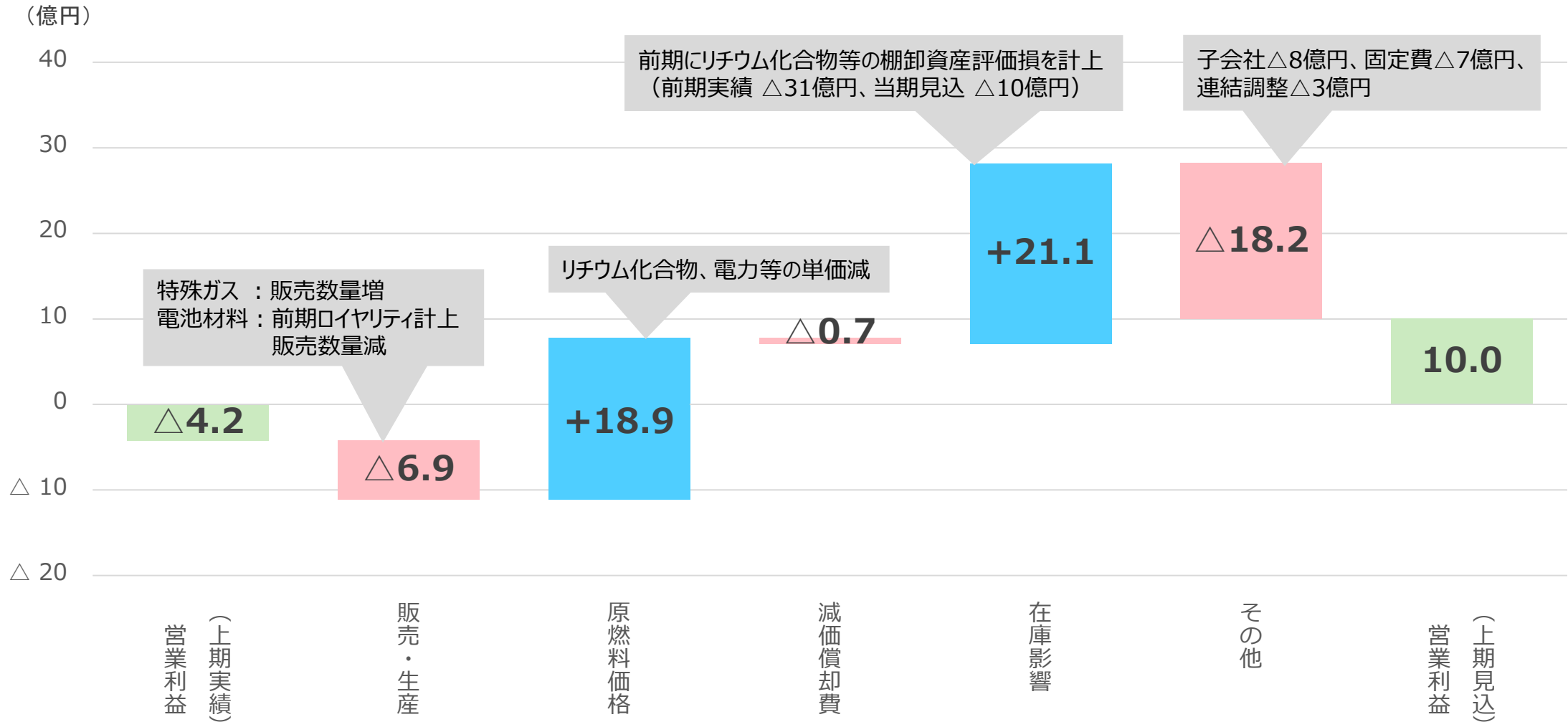
セグメント別業績予想（連結） 上上比較

（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	上期実績	上期見込	増減	上期実績	上期見込	増減
基礎	43	42	△1	△0	△1	△1
精密	282	247	△35	△8	10	18
その他※	22	21	△1	4	1	△3
合計	348	310	△38	△4	10	14

※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

連結営業利益差異分析（前上期実績 対 上期見込）



セグメント別業績予想（連結） 上下比較

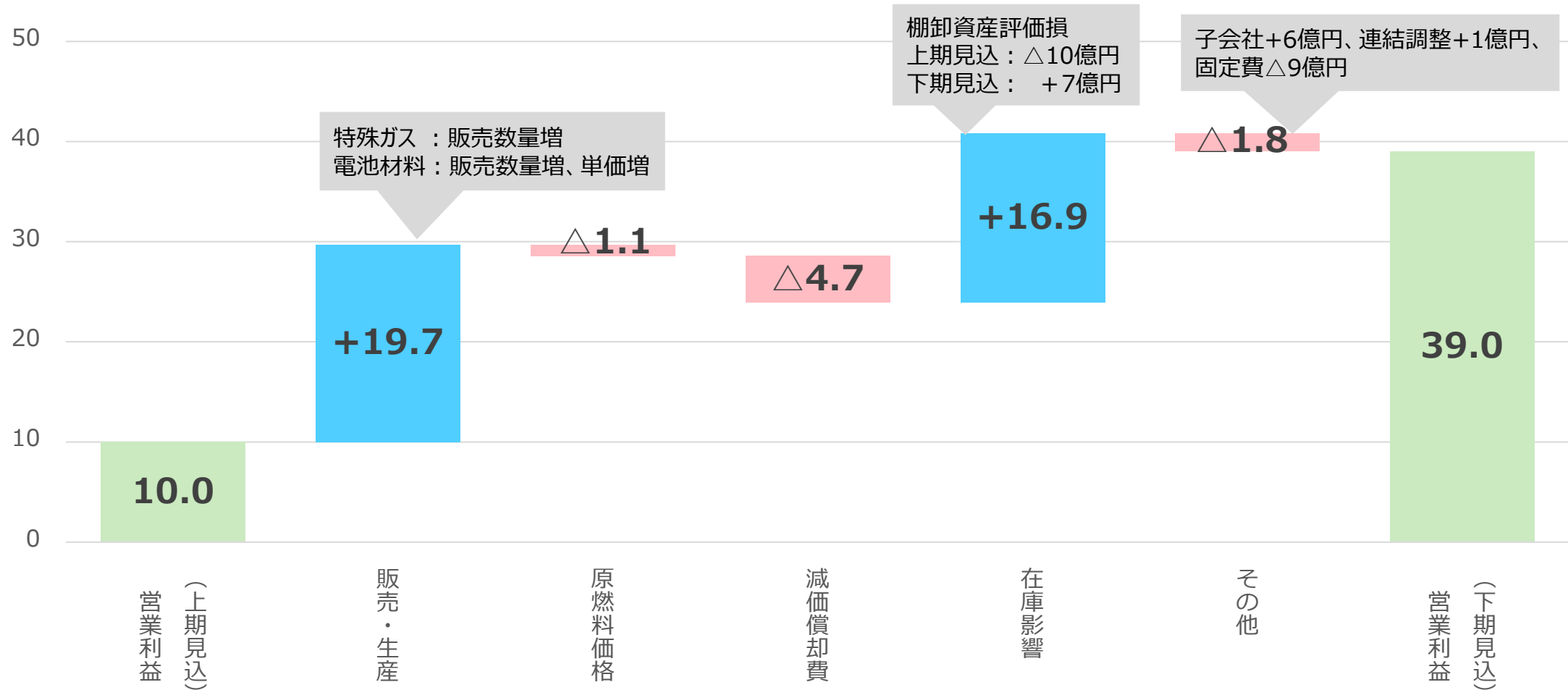
（単位：億円）

	売上高			営業利益		
	上期見込	下期見込	増減	上期見込	下期見込	増減
基礎	42	43	1	△1	1	3
精密	247	313	66	10	35	25
その他※	21	24	3	1	2	1
合計	310	380	70	10	39	29
設備投資費	67	88	20			
減価償却費	41	46	4			
研究開発費	9	10	0			

※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

連結営業利益差異分析（上期見込 対 下期見込）

（億円）



トピックス（主な設備投資の状況）

投資項目	投資内容	備考
ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン (C4F6)	400t/年 ⇒ 600t/年	・2024年度末完成予定
硫化カルボニル (COS)	150t/年 ⇒ 200t/年	・2025年度稼働予定
六フッ化リン酸リチウム (LiPF6)	5,400t/年 ⇒ 8,000t/年	・需要動向により稼働時期を判断
新規エッチングガス (KSG-14) 量産設備	150t/年	・2024年度末完成予定
リチウムイオン電池用 新規添加剤	蓄電池 65GWh/年相当	・2025年度2Q稼働予定
宣城科地克科技有限公司	I期工事（フッ化アンモニウム） II期工事（WF6、C4F6、CF4）	・I期工事：稼働中 ・II期工事：2024年2Q稼働予定

トピックス（特殊ガスの新製品）

エッチング性能に優れた、低環境負荷な半導体用特殊ガスを開発

KSG[®]-14

2023年4月販売開始

3次元エッチングにおいて高速、且つ、高形状制御エッチングを実現する新エッチングガス。
GWPが極めて低いという特性と、生産性向上により、エッチング工程全体の環境負荷低減を実現する。

KSG[®]-5

2024年4月販売開始

低環境負荷、且つ、高選択エッチングを実現する新エッチングガス。
GWPが極めて低いという特性と、生産性向上により、高環境負荷の従来ガスの代替を実現する。

KSG[®]-22

量産計画中

次世代エッチング技術とされる低温エッチングに対応する超高速エッチングガス。
GWPが極めて低いという特性と、生産性向上により、エッチング工程全体の環境負荷低減を実現する。

Ⅲ | 中期経営計画の進捗

各戦略・施策の進捗

－ 事業戦略 －

－ 精密化学品事業の拡大推進 －

- 成長戦略
⇒ **変化に対応する基盤づくりの途上**
- ポートフォリオ改革
⇒ **着実に遂行中**
- 研究開発
⇒ **新規製品を上市**

－ 資本効率向上 －

- 政策保有株式の縮減
⇒ **一部売却、計画通りに実施予定**
- 棚卸資産の圧縮
⇒ **計画通りに実施**
- 製品の収益管理の強化
⇒ **事業本部内に管理部を新設**
- 投資・撤退基準の高度化
⇒ **投融資判断規程の制定**

－ ガバナンス強化 －

- 役員報酬制度改定
⇒ **計画通りに実施予定**
- 取締役会等の改革
⇒ **監督機能を強化**

－ 人的資本戦略 －

- 人材育成充実
⇒ **計画通りに実施**
- 多様性、働きやすい職場づくり
⇒ **女性活躍の面で課題を残す**

－ 組織戦略 －

－ 生産技術力の底上げ －

- IRの強化
⇒ **統合報告書を発行**
⇒ **面談件数増加**
- DXの推進
⇒ **AI解析を活用**
- 品質保証能力向上
⇒ **計画通りに実施**
- 法務部門の強化
⇒ **専門人材を拡充**

－ ESG戦略 －

－ 社会的価値向上 －

- 環境
⇒ **リサイクル原料活用**
- 社会
⇒ **パートナーシップ構築宣言を公表**
⇒ **購買ガイドラインを公表**
- 企業統治
⇒ **強化策を実施予定**

電池材料の進捗状況

取り巻く環境

- 2023年のEV販売が伸びず成長鈍化
- LiPF6市況は低迷を続ける
- EVに係る米中摩擦は激化の様相

戦略・施策

急速な市場成長の取り込み

- ライセンスビジネスの拡大

原材料市況に左右されない事業構造の構築

- リチウム回収の事業化
- 棚卸資産回転率の向上

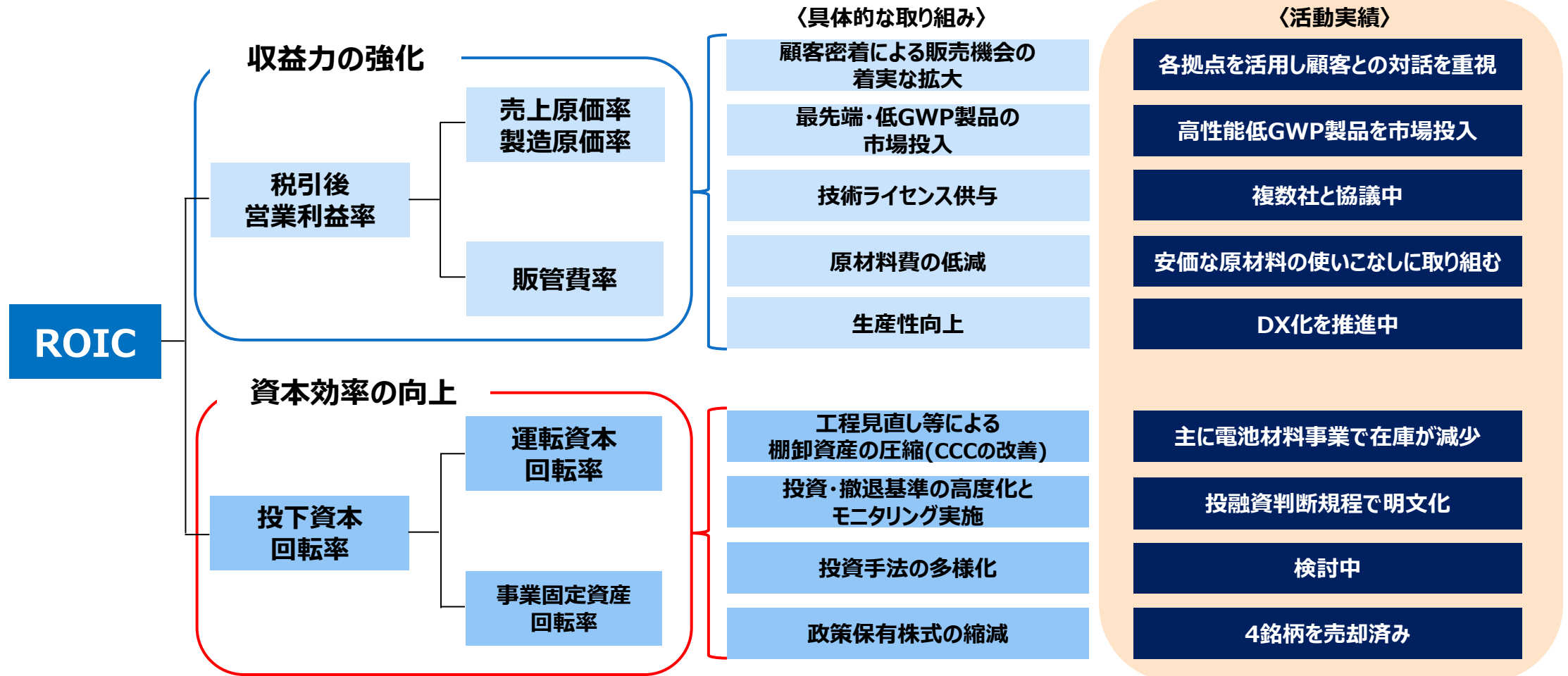
活動実績

- ライセンスビジネスについて複数社と協議中
- 多様な原材料へ転換
- 原料調達、製品販売先の見直し

今後の展望

- 原料の脱中国化を進め、米中摩擦に対応する
- ライセンスビジネスの拡大、継続
- リチウム回収の早期事業化による事業リスク低減

ROICツリー



PBR 1 倍割れ対策の進捗状況

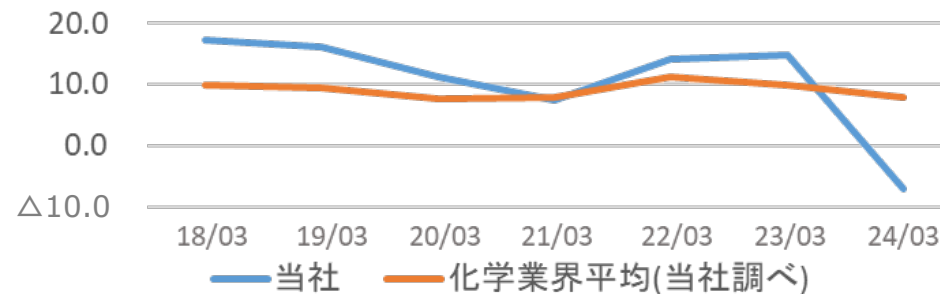
PBR(倍)の推移



PBR向上策

- 精密化学品事業を中心とした事業の拡大
- ROIC経営の推進
- 投資家との継続的な対話、情報発信の強化
- 政策保有株式の縮減による資本コスト低減
- 配当方針の改定

ROE(%)の推移



PER(倍)の推移



今後の取り組み

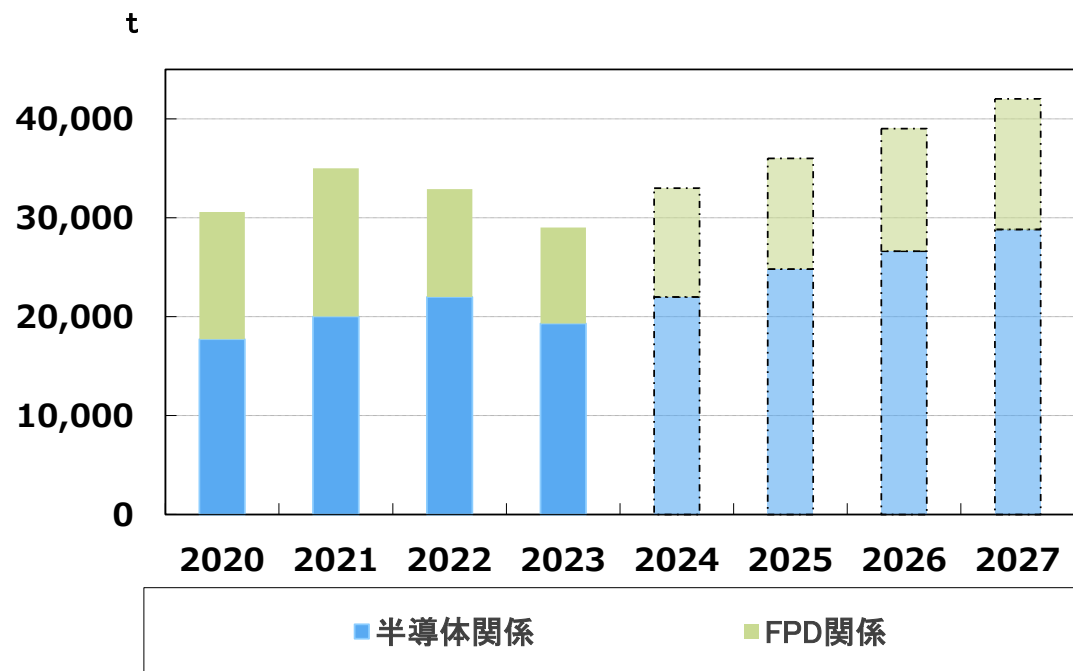
- 適切な投融資判断による成長市場の取り込み ⇒ **利益拡大**
- ポートフォリオ改革、政策保有株式縮減 ⇒ **資本効率向上**
- 情報発信をより一層強化 ⇒ **成長期待を高める**

IV | 補足資料

– 主な製品の見通し – 三フッ化窒素 (NF₃)

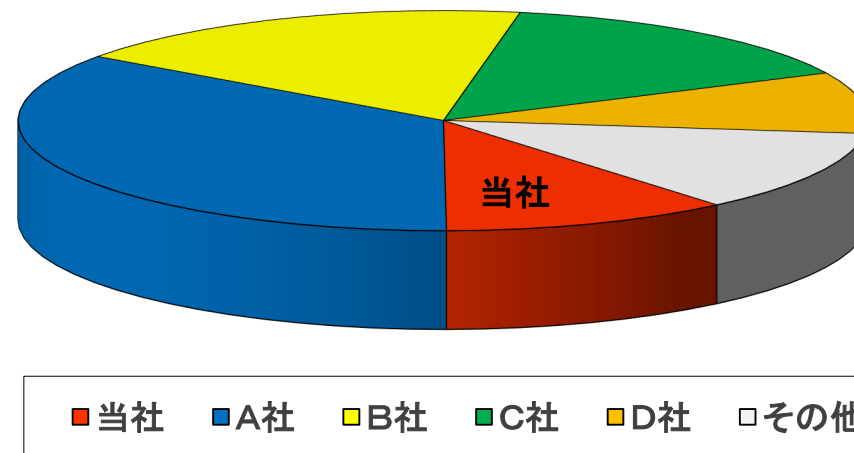
- 半導体・FPD製造プラズマCVD装置のチャンバークリーニングガス
- 製造能力 3,700t/年

【需要動向（2024年度以降は当社予想）】



【予想シェア】

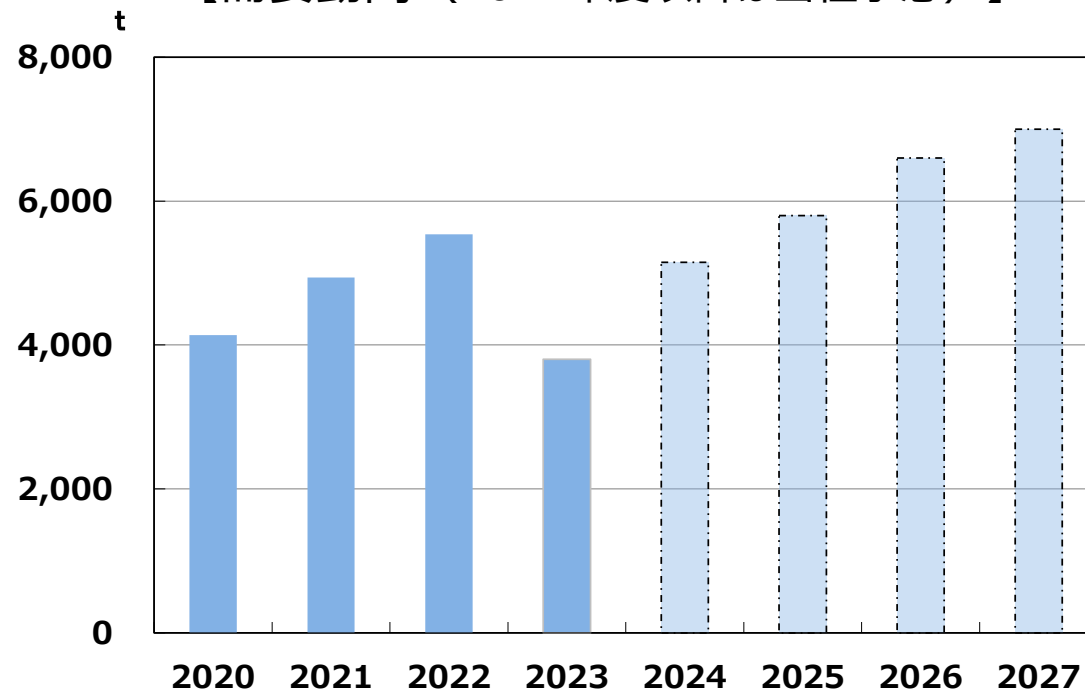
- ・当社シェアは1割強
- ・大手半導体向けシェアは約2割



– 主な製品の見通し – 六フッ化タンゲステン(WF₆)

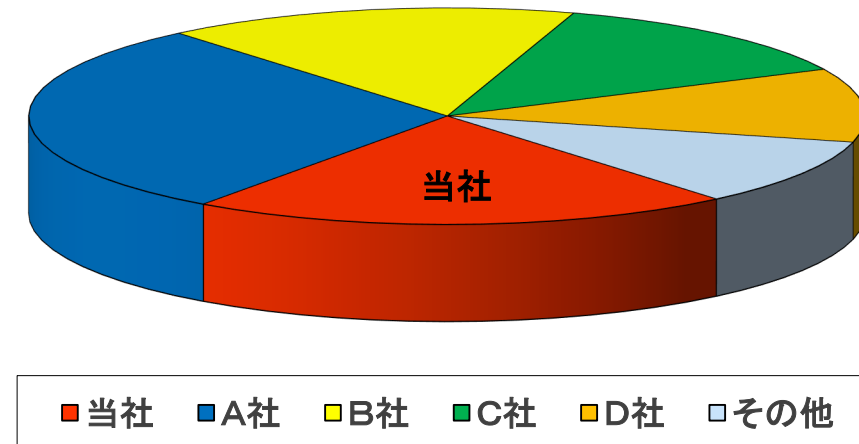
- 半導体用配線材料ガス。
- 製造能力 1,400t/年

【需要動向（2024年度以降は当社予想）】



【予想シェア】

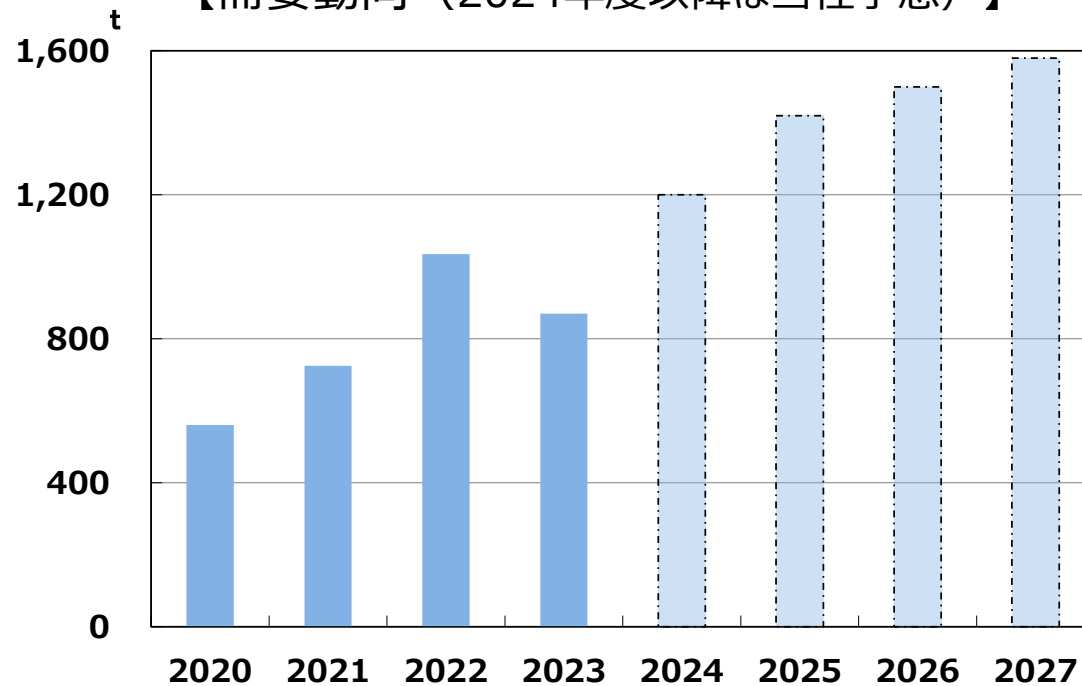
・当社シェアは2割強



–主な製品の見通し–ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン(C₄F₆)

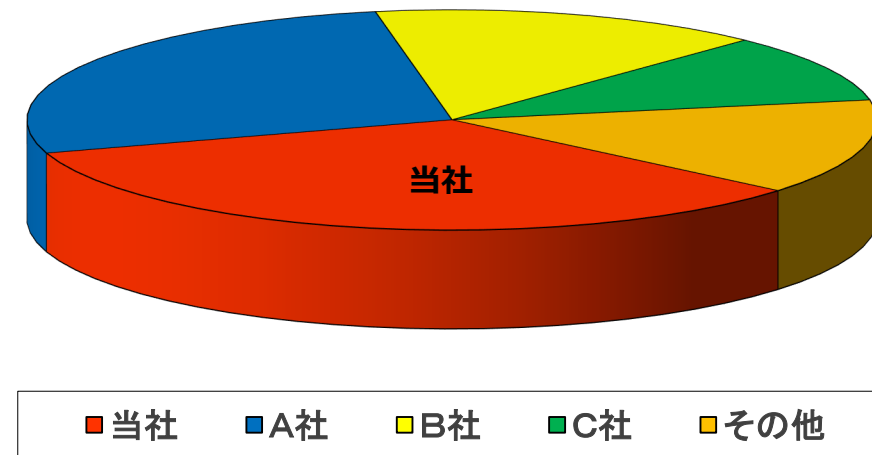
- 半導体用エッチングガス。
- 製造能力 260t/年 (2019.12) ➡ 400t/年(2022.4) ➡ 600t/年 (2024年度末完成予定)

【需要動向 (2024年度以降は当社予想)】



【予想シェア】

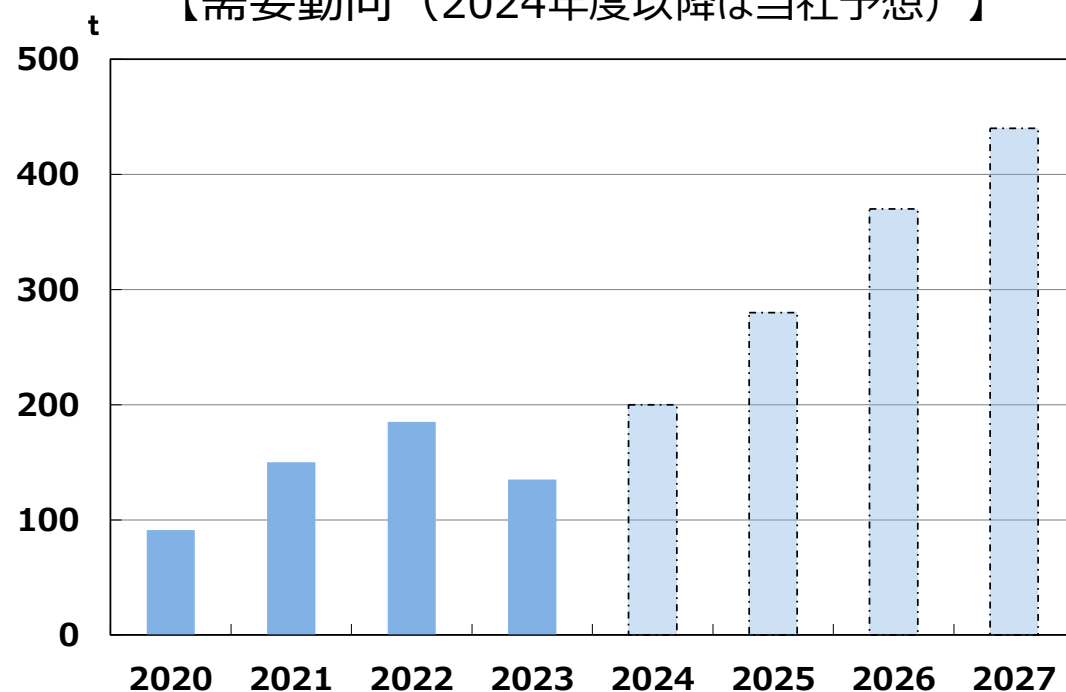
- ・当社シェアは3割以上
- ・3D-NANDの多層化が進み、需要堅調



– 主な製品の見通し – 硫化カルボニル(COS)

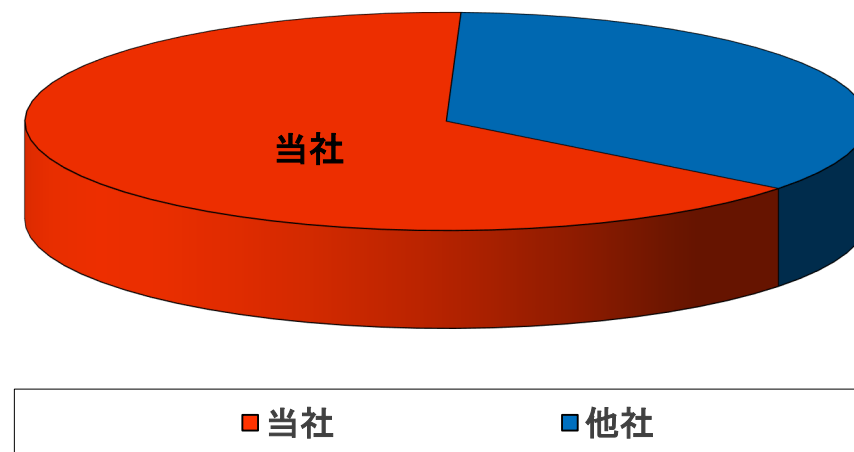
- 半導体用エッチングガス。
- 製造能力 80t/年 (2019.10) ➡ 150t/年 (2022.6) ➡ 200t/年 (2025年度稼働予定)

【需要動向 (2024年度以降は当社予想)】



【予想シェア】

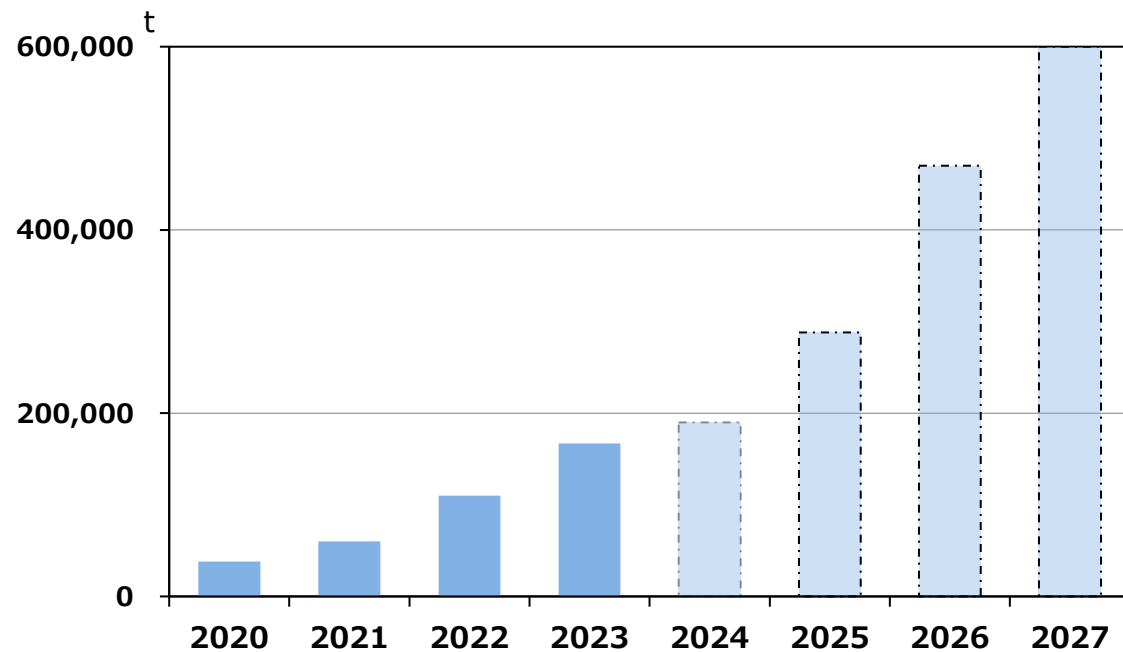
- ・当社シェアは6割以上
- ・3D-NANDの多層化が進み、需要堅調



－主な製品の見通し－ 六フッ化リン酸リチウム (LiPF₆)

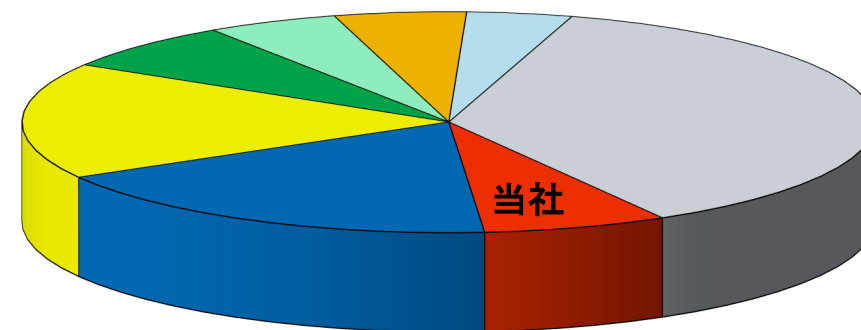
- リチウムイオン二次電池の材料である電解質
- E V等の車載向け需要が本格化
- 製造能力5,400 t /年 ➡ 8,000t/年 (需要動向により稼働時期を判断)

【需要動向 (2024年度以降は当社予想)】



【予想シェア】

車載用電池市場において、
日本7割、米国4割、欧州1割のシェア



– 海外生産拠点について – 関東電化ファインプロダクツ韓国(株)

□ 所在地

大韓民国忠清南道天安市

□ 事業内容

半導体・FPD用特殊ガス類の製造・販売

□ 生産品目

- ・硫化カルボニル(COS)
- ・四フッ化炭素(CF₄)
- ・三フッ化塩素(CIF₃)



– 海外生産拠点について – 宣城科地克科技有限公司

□ 所在地

中華人民共和国安徽省宣城市

□ 事業内容

半導体・FPD用特殊ガス類の製造・販売

□ 生産品目

I 期工事

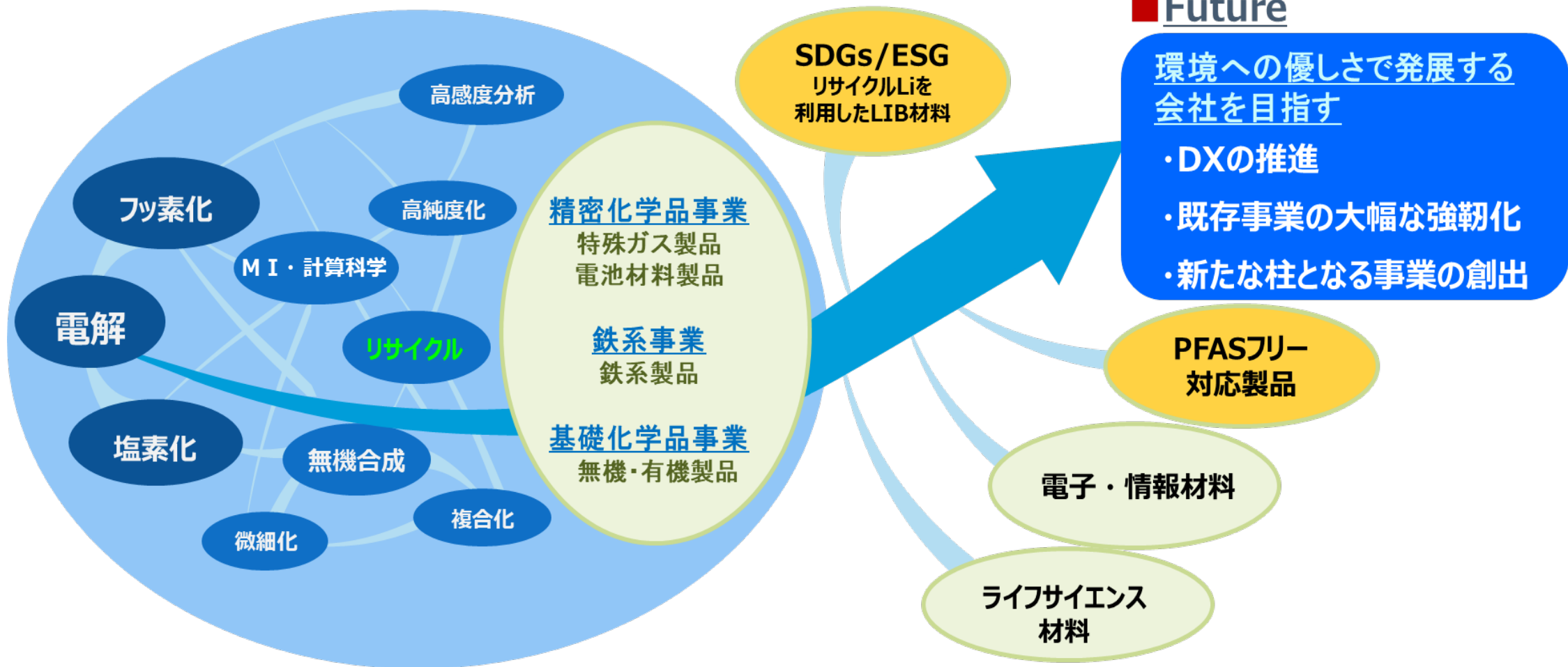
- ・フッ化アンモニウム

II 期工事

- ・六フッ化タンゲステン(WF₆)
- ・四フッ化炭素(CF₄)
- ・ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン(C₄F₆)



当社技術と事業方向性



■ KDK-Core Technology

事業セグメント

名 称		内 容
基礎化学品 事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ビニリデン、シクロヘキサノール等
精密化学品 事業	特殊ガス製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、六フッ化エタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タンゲステン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、モノフルオロメタン、硫化カルボニル、KSG-14、KSG-5等
	電池材料製品	六フッ化リン酸リチウム、ホウフッ化リチウム、ジフルオロリン酸リチウム等
鉄系事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料等
商事事業	関電興産(株)	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店業務等
設備事業	(株)上備製作所	工場プラント建設、工場設備保全工事等

注意事項

- 本資料は、金融商品取引法等のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なります。